

OPAC 通信

Transforming Okinawa's Heart into Action

Okinawa
Peace Assistance
Center

特定非営利活動法人
沖縄平和協力センター (OPAC)
沖縄県那覇市久米 1-5-18 稲福ビル 201-B
TEL (098) 866-4635 / FAX (098) 866-4638

www.opac.or.jp
2015 Jan

『沖縄とカンボジアの博物館作り協力』

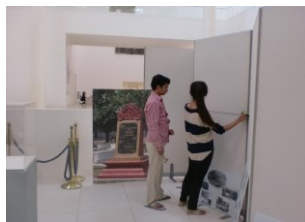
～沖縄とカンボジアの歴史的な繋がり～

第二次世界大戦で激戦地となった沖縄。およそ3ヶ月間の地上戦で、県民の4分の1とも言われる尊い命が失われ、多くの貴重な文化財産も焼失した。一方、国民の4分の1を激しい内戦により失ったカンボジア。両地の経験や記憶はまだ生々しく、過去の歴史となるにはまだ早すぎる。

～OPACとカンボジアの博物館との関わり～

2009年から2011年にかけて、JICAより委託を受けた沖縄県平和祈念資料館は、カンボジアのトゥール・スレン虐殺博物館に対し、沖縄戦の継承における資料館の役割を主眼においた技術協力を行ってきた。その中で、OPACは博物館研修生の受け入れに協力してきた。

2012年から2014年は、後継事業として沖縄県立博物館・美術館がJICAより委託を受け、カンボジアのトゥール・スレン虐殺博物館とカンボジア国立博物館に対し、管理運営や企画展開催の方法、及び教育普及の指導をしてきた。



(昨年度の展示会準備風景)

その中でOPACは「平和文化」創造の拠点としての博物館創りを目的とし、職員の能力向上や施設運営方法の改善を目指した研修員受け入れ調整等の協力を続けてきている。カンボジア国立博物館では3月5日から、そしてトゥール・スレン虐殺博物館は6日から、これまでの研修成果を表す企画展が開催される予定となっており、この平和創造事業の最終段階を迎える。オープニングセレモニーでは、「平和文化」交流の一貫として、今回初の試みとなる沖縄県立芸術大学の生徒らによる琉球伝統舞踊の公演が予定されている。こ

の6年間に渡る平和文化創造事業の集大成となる今回の展示会の成功を切に願い、沖縄とカンボジアの博物館の職員及び関係者らは準備を進めている。

『トゥール・スレン虐殺博物館』

～ポルポト政権の虐殺～

～博物館の正体～

トゥール・スレン虐殺博物館。その響きからも、残酷な何かが行われていた事を想起させられるのではないだろうか。1970年代後半、当時のポルポト政権は、『原始共産主義社会』への回帰を理想に掲げ、極左的な政策を取った。ポルポト政権下では、知識人は国民に格差をもたらす反政府分子と見なされ虐殺の対象となった。また、国民は農村への移住や農業への従事を強いられた。当時使われていなかった学校は収容所になり、多くの反政府分子と見なされた者が収監され、尋問や拷問が繰り返された。この収容所こそ、現在のトゥール・スレン虐殺博物館である。無差別に多くの人々が命を奪われ、ポルポト追放までの2年9ヶ月の間で約14000人～20000人が同収容所で亡くなったとされ、カンボジアの国全体の死者は約200万に達するといわれる。



出典 (C)2002 K.Chiba & N.Yanata All Rights Reserved

《編集後記》

2月号を担当した、インターン生の慶應大学4年、輿石です。今回の記事は、現在OPACの注力事業の一つを紹介しました。つい最近まで両地に起こっていた事実は、過去の歴史とするにはまだ早過ぎる気がします。その反面、記憶として残る歴史的事実を受け止め、平和文化創造事業に取り組む博物館の方々の姿勢には、平和な世の中が当たり前だと思っている日本の若者が学ぶべき部分は、沢山あると感じました。

(輿石静諄)